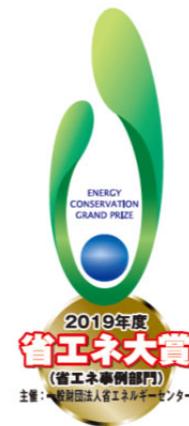


2019年12月24日
イオンディライト株式会社

unimo ちはら台ショッピングセンターにおいて4年間で30%の消費電力量削減
「2019年度省エネ大賞」省エネルギーセンター会長賞を受賞
LED照明と空調制御システム導入が評価

イオンディライト株式会社（本社：大阪市、代表取締役社長兼社長執行役員 グループCEO：濱田和成、以下「当社」）は、ラサール不動産投資顧問株式会社（本社：千代田区、代表取締役社長：キース藤井）、JLLモールマネジメント株式会社（本社：台東区、代表取締役社長：飯尾太一）と実施した「ショッピングセンターにおける無線通信を活用した空調・照明の消費電力量削減」に関して、2019年度省エネ大賞（主催：一般財団法人 省エネルギーセンター）の省エネ事例部門における「省エネルギーセンター会長賞」を共同で受賞しました。

省エネ大賞とは、省エネルギー意識の浸透と省エネルギー製品等の普及促進に寄与することを目的として、国内の省エネを推進する事業者の優れた取り組みと、省エネに優れた製品を表彰するものです。表彰式は2020年1月29日（水）に東京ビッグサイト（住所：東京都江東区有明3-11-1）で開催されるENEX2020「第44回地球環境とエネルギーの調和展（1/29～1/31）」で行われる予定です。



今回の受賞に至る当社の取り組みは、お客さまのサステナビリティ・ガイドラインのもと、効率的な管理を行う空調制御システムを提案・導入し、施設におけるエネルギー使用の効率化、省エネ化を実現したことにあります。評価に繋がった空調制御システムは、当社お客さま施設に順次提案・導入をしており、省エネ効果を発揮しています。

【省エネルギーセンター会長賞受賞の概要】

- ・ unimo ちはら台ショッピングセンター（千葉県市原市）における共用管理部分の消費電力量を2015年以降の4年間で30%削減。主な省エネの取り組みはLED照明（他社による導入）と空調制御システムの導入。
- ・ 従来の空調設備の運用は、空調機の運転・停止のスケジュール運転や手動での個別操作がメインで、冷房負荷変動への対応が難しく、きめ細やかな省エネの実現が難しい状況だった。
- ・ そこで、館内外に無線温湿度センサーを複数導入し、空調機や外気利用を自動化するとともに、施設内外から得たデータを集約・分析、省エネチューニング※1を遠隔からも監視し随時調整できるようにしたことで、快適な館内環境と消費電力量の大幅な削減を同時に実現した。

当社は、2006年にイオンディライトとして誕生して以来、「お客さま、地域社会に『環境価値』を創造し続けます」という経営理念のもと、事業を展開してきました。「環境価値の創造」とは、人間環境に関わる全ての人々が平和と豊かさを享受できる環境を創出していくことを意味しています。

こうした経営理念のもと、当社では、今般の受賞に繋がった空調制御システムに加え、長年培ってきた施設管理の視点で、オープンネットワークシステム※2を通じて施設内外のデータを集約・分析、タブレット端末においても遠隔監視・操作を可能とすることで、省エネのみならず省力化や省人化を実現してまいります。

当社では、引き続き、事業を通じて「環境価値を創造」していくことにより、ESGやSDGsといった社会の要請に対応し、2018年10月に公表したイオンディライト ビジョン2025で掲げる「安全・安心」、「人手不足」、「環境」といった社会課題の解決を目指してまいります。

※1.省エネチューニング

建物の実際の使用人員や室内外の発熱等の運用特性を踏まえて、空調機の必要外気量、送風量などを無駄のないよう運転・調整すること。

※2.オープンネットワークシステム

異なるメーカーの設備機器をネットワークで繋ぎ、統合的に管理することで、省エネ効果、効率的な施設運営と遠隔オペレーションを可能とするシステム。

— 本リリースに関するお問い合わせ先 —

イオンディライト株式会社 ディライトコミュニケーション部
TEL：03-6840-5712 FAX：03-3524-8902